

異文化コミュニケーション学部学位授与方針

学修成果

「学士（異文化コミュニケーション学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

※各項目の（ ）内は全学の学修成果項目との関係性を記載。

1. 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。（主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「6. 表現力」と関連）
2. 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。（主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」と関連）
3. グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身に付けることができる。具体的には、二つの外国語（英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか）で適切なコミュニケーションができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力をもち、実社会のコミュニケーションに対応できる。Intercultural Communication for Global Leadership（以下、ICGL）の学生は、高度な英語運用能力をもって大学での学修を英語ですすめることができ、また、日本での社会生活に必要な日本語運用能力を身に付け適切なコミュニケーションができる。（主に「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連）
4. 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、それを踏まえて行動することができる。（主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「2. 専門性」「9. 社会的実践力」と関連）
5. 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。（主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「9. 社会的実践力」と関連）
6. 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。（主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連）
7. 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。（主に「9. 社会的実践力」、その他「3. 自己を理解し発展させる力」「7. リーダーシップ」と関連）
8. 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことできる。（主に「5. 他者を理解する姿勢」、その他「4. キャリア展望を確立する力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」、その他「1. リベラルアーツの素養」と関連）

さらに全学共通科目により、

9. 言語 A の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身に付く。また、NEXUS プログラムにより入学した学生については、言語 B と合わせて大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身に付ける。ICGL の学生は、言語 B と合わせて言語 A として日本語を学び、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
10. 言語 B の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多面的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身に付ける。ICGL の学生は、言語 A とあわせて、言語 B としても日本語を学び、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
11. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身に付け、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
12. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。